



2023年度前期定例文連総会を開催！

活発な討論を通じて前期の文化サークル活動の地平を確認し、後期サークル活動の方針を確立！



7月5日、私たち文化団体連合会は2023年度前期定例文連総会を開催しました。サークル幹事による活発な討論を通じて、前期の文化サークル活動の地平を確認し「サークル補助金の大幅増額」や「憲法改悪反対」を課題とする後期サークル活動方針を盛り込んだ常任委員会提出の議案を、賛成10の満場一致で採択しました。

今春期、早稲田サークル文化を豊かに作りだした地平を確認

討論のはじめに、文連加盟サークルの幹事は、当局・学生部による感染対策を理由としたサークル活動規制をサークルの団結で完全撤廃させ、今年の新歓活動と5・6月期の文化サークル活動を対面で活発に実現してきたことを報告しあいました。「今年はキャンパスでブースや看板を出して新入生にサークルの魅力を沢山宣伝できた」「体験会やワークショップ、食事会も企画した」と、創意工夫して新歓活動を実現したこ

とを語る幹事…。「観客の人数制限が撤廃されて演劇公演に熱気が戻った」「オンラインが多かったミーティングを対面に変えてサークルの結束力が増した」「研究活動も対面でやってきたことがすごく大切だった」と、5・6月期も稽古や練習を対面で積み重ね、演劇公演や演奏会などを成功させたことを生き生きと語る幹事…。その場にいた全てのサークルが他のジャンルのサークルの報告に熱心に聞き入りました。話を聞いていたサークル幹事はさらに、「自分たちがつくった作品を他のサークルの企画でも活用してもらうことはできるだろうか」と提案しました。ジャンルの違いを越えた新しい表現の形が提起されたことを参加したサークルで確認し、サークル間の力を合わせて早稲田サークル文化を創造していくことを確認しました。以上の討論を通じて、今春期の文化サークル活動の地平を全体で確認したのです。

今夏・今秋期の文化サークル活動方針をめぐって活発に討論！

続いて、後期も早稲田サークル文化をより豊かに作りだしていくために、常任委員会が提



新歓活動で賑わう大隈銅像前の様子(4月1日)。コロナ以降中止されていた新歓期間のキャンパスでのブース設置を、今年度は復活させた。

起したサークル活動方針をめぐって活発に討論を行ないました。

1つ目に、サークル補助金の大幅増額についてです。日々のサークル活動に必要な経費が昨今の物価高で増していることに対し、サークル幹事は「公演に必要な木材の値段が高くて困っている」「サークル企画の会場代が高く、サークル補助金の上限額30万円ではとても足りない」と窮状を訴えました。別のサークルからは、「物価高にも関わらず学生部がサークル補助金を1円も増額しないのは、彼らがサークル補助金を「イベント」という活動「成果」をあげたサークルに対する“報奨金”のようなものとして位置づけているからだ」と怒りの声があがりました。サークル連合体の力でサークル補助金制度を改めさせていこう、と確認しました。

2つ目に、当局・理事会が来年度入学生学費の超大幅値上げ（4年間総額で32～52.2万円）を突然かつ一方的に決定したことに対して「物価高の中で学費値上げは早大生の学生生活を破壊するものだ」と訴えた議案について、サークルからは、政府・文部科学省が私学助成金（註1）を削減している分を理事会が学費値上げに転嫁していることに怒りの声があがりました。政府・文科省による国公立大学への補助金削減に抗して声をあげる全国の学生と連帯して反対していくことを全体で意志一致しました。

3つ目に、「言論・表現の自由」「平和主義」を否定する岸田政権の憲法改悪に反対することを訴えた議案に対して、討議に参加したサークル幹事は「文連が改憲反対の課題に取り組むのは大切だと思う」と賛同の声をあげました。この幹事は「自民党改憲案にある「緊急事態条項」の創設は一切の基本的人権を否定するものでとても危険だ。私たちが日々のサークル活動で表現したいことや観客とともに考えたいことが「有

事」の名のもとに制限されかねず、文化活動を担う者だからこそ反対するべき」と他のサークルにも呼びかけました。

以上の課題を実現するために、神原委員長は最後に、早稲田唯一のサークル連合体・文連の団結を強化する必要があることを訴えました。いま愛知大学をはじめとして全国の大学で学生の自治やサークルの自治を否定する動きが出ていることに対しても、これに抗してたたかう学生と連帯してともに反対していこうと呼びかけました。委員長の呼びかけを受けて、サークルからは「私たちが日々行っているサークル活動は自主的なもの。これを「厚生補導」（註2）という考えのもとに大学に管理されるならば、それはサークル活動でなくなってしまう。絶対におかしい」と怒りの声が表明されました。

以上の討論を行うことを通じて、今夏・今秋期の文化サークル活動方針を確立しました。最後に文連常任委員会の2022年度決算と2023年度予算を承認し、総会を締めくくりました。全てのサークル員のみなさん、本総会を実現したことにふまえ、今夏・今秋期もさらに頑張りましょう！！

註1) 私学助成金…私立大学への国の助成金。岸田政権は、私学助成金を含む文教費を削減して、5年間で43兆円もの大幅な軍事費増額の財源にあてようとしている。

註2) 「厚生補導」…昨年10月、文科省が改定・施行した「大学設置基準」に導入された学生・サークル管理の考え方。そこでは、学生の「社会的および職業的自立を図るために必要な能力」を培うなどとして、「課外活動」に「大学が関与すること」とされている。しかも「学生自身の資源配分の整理」と称して、学生が授業以外の時間をどう使うかまで大学が管理するとしている。